

グラビア	地域を支える人 島崎夕香里さん・静岡県富士市	1
発掘! 地域の希望のタネ	〈葱ッぺ餃子〉千葉県茂原市	5
給食のじかん	〈東海イモゾー汁〉茨城県東海村	相澤輝子 6
書評	日野行介 著『原発再稼働―葬られた過酷事故の教訓』	菅原敏夫 8
焦点	女性の働き方は変わるか ―短時間労働者の社会保険適用拡大	平田未緒 10

静岡自治研 特集号

やらざあ、自治研ルネサンス!

静岡自治研 コンセプト	ちょっと始めてみませんか? やらざあ、自治研ルネサンス!	青木真理子 16
第1分科会	自治研入門! 来たれ、地域の新たな主役!	篠田 徹 18
第2分科会	アニメ! マンガ! コンテンツを活用した地域活性化	森 裕亮 20
第3分科会	高齢者に優しい各自治体・地域の取り組み	井上信宏 22
第4分科会	多様性が尊重される社会にむけて	仲岡しゅん 24
第5分科会	コロナ禍の平和運動を探る	福山真劫 26
第6分科会	災害に強いまちづくり	池田恵子 28
第7分科会	まちおこし	多田朋孔+清家 順 30
第8分科会	自治体DX最前線!	松岡清志 33
第9分科会	SDGs×生活×自治研	大槻拓美+本村 真 36
特別分科会	今、必要とされる公共サービスと自治	井手英策 39
座談会	自治研活動に携わって	掛川和輝+黒田麻美+佐野ひかる 前田 藍+西尾祥之 42
	自治研活動スタートアップマニュアル	57
	自治体の雑誌案内	69
自治研活動 レポート	コロナ禍における富山県地方自治研究センター の取り組み―富山県本部	阿閉 智 70
	次号予告・編集部から	72

『原発再稼働―葬られた過酷事故の教訓』
集英社新書 九九〇円
日野行介 著



原子力規制委員会
二〇二一年一月四日、毎日新聞朝刊一面は、原子力規制委員会が公開の正式な会合に先立って秘密裏に、関西電力に有利な命令書案を決めていたことを報道した。案は、規制庁長官が主導し、規制委員長は、疑惑を反映していた。情報公開、公正・透明性の問題を超えて、すべて原発再稼働にむけたお膳立てだったことが明らかに。

福島原発事故後、すべての原発が一旦止まった。国策は原発を廃止するのではなく、再稼働を目的とすることになる。「改革」は二つ、新規制基準と防災指針だ。「基準」の運用は、先の例に見るように、規制委自体が危険性の過小評価を防げず、運転停止命令と司法による運転差し止めの防波堤となっている。フクシマの教訓は活かされていない。

絵に描いた餅…避難計画

第二の「指針」の眼目は避難計画だ。ここでは避難住民受け入れ可能数の過大評価が問題だ。計画を自治体に丸投げした挙句、数字は辻褄合わせ、フクシマの教訓である放射性物質の拡散には目をつぶり、避難手段も「絵に描いた餅」だ。計画の策定プロセスは「隠蔽と杜撰」のオンパレードである。

最初のスクープ記事の署名記者の一人である著者は、原発再稼働にむけた動き

を膨大な事実一つひとつを組み立てて、不正と虚構を明らかにしていく。継続した調査と報道は、規制委の例では秘密会議の録音を記者の手にもたらず。それによって、規制委が隠したかったこと、偽りが明らかになった。報道によせる信頼が内部にいる人の正義感と使命感そして勇氣(たまたに悪意)をもたらず。

調査報道

著者は一連の仕事を「調査報道」と呼ぶ。本書は原発再稼働の真実を明らかにする内容であると同時に、調査報道の実例に基づいた解説ともなっている。「種明かし」「手の内」はちよつと見もの。著者には『調査報道記者』(二二年七月、明石書店)もある。あわせて読むことをお勧めする。

著者は昨年、新聞社を離れたという。新しい「調査」と「報道」を待つ。

評者 菅原敏夫 本誌編集委員